

保育計画成果報告書

法人名等	学校法人小原田学園
施設名	認定こども園こはらだ幼稚園
報告者（役職）	中野 光一（園長）
住所・連絡先	福島県郡山市小原田2丁目20-15
	Tel 024-944-2255
	E-mail info@koharada.ac.jp

○タイトル（保育計画）

絵本の読み聞かせで育てる心豊かな「こはらだっ子」
—円形図書コーナーをベースに読み聞かせ保育の活性化を図る—

○主な助成備品

絵本、大型絵本、紙芝居、書架、等

1. 保育計画策定の目的

(1) 園児を健やかに育てるための図書環境の充実

本園は、待機児童解消という社会的使命をバックボーンに、令和2年の4月1日より、認定こども園こはらだ幼稚園としてスタートしました。認定こども園の幼稚園型になります。園舎も保育園部門、調理室、ランチルーム、預かりスペースを新設すると共に、園児の隠れ家的な絵本スペースも設置しました。それは螺旋階段下に高さが50cm程度の低めの円形本棚を設置し、その空間で絵本が読めるようになっています。絵本に囲まれる落ち着いた空間作りを目指していますが、絵本が不足しており、その充足が急がれていました。また、保育室内においては絵本の収納スペースに難があり、効率的な絵本の活用がしづらい状況でした。

今回、園児を健やかに育てるための図書環境の充実を図ることを目的に、貴社の待機児童対策助成事業に応募し援助を受けることができました。これを契機に図書環境の充実を図りながら、絵本の読み聞かせによる保育の充実のために、絵本、紙芝居の有効活用を図る活動を進めました。



購入していただいた絵本、紙芝居、書架の一部

(2) 園児及び保護者の実態を踏まえた絵本の読み聞かせ活動の実践

日本小児科医会のポスターに「スマホに子守りをさせないで！」がありましたが、園の保護者や園児の様子を見ていますと、この懸念が現実となりつつあります。保育参観中であってもスマホを見ている保護者、経済活動優先で、「早寝、早起き、朝ごはん」の習慣はもちろん、基本的なしつけができない保護者の現実を見ると、教育基本法で述べられている家庭教育の規定は反故にされている感があります。しつけも園で請け負っている状況ではありますが、幼児期の子どもは大変な勢いで成長します。その成長の時に、できるだけ質の高い環境の中で教育・保育を行いたいと願い、絵本の読み聞かせの実施計画を策定しました。

《志向する絵本の読み聞かせの内容》

① 幸福感と喜びの共有を与える『絵本の読み聞かせ』

担当が自分のために読んでくれているという「幸福感」を味わえるようにし、クラスメイト同士が喜びを共有する絵本体験の場とします。

0歳児、1歳児の赤ちゃんにも、絵本の色彩を見ることで脳に刺激を与えますし、保育士とのスキンシップでリラックス効果が期待できます。

② 子どもの精神状態を落ち着かせる『絵本の読み聞かせ』

保育活動の中間に子どもを落ち着かせたり、気持ちの切り替えをさせたりするために、絵本の読み聞かせを効果的に取り入れます。

3歳児～5歳児は、連続する活動の中で動から静への切り替えが求められます。その切り替えをスムーズにさせるのが絵本の読み聞かせです。

③ 感情を豊かにする・創造力を育てる『絵本の読み聞かせ』

子どもは絵本を通じての疑似体験により、喜怒哀楽を感じることで、心の変化を知ることによって感情が豊かになります。

2歳児～5歳児は読み聞かせにより、創造力が育ちます。創造力の豊かな子は、思いやりを持って人と関わることができ、感受性豊かな優しい人になれます。

④ コミュニケーション能力を高める『絵本の読み聞かせ』

読み聞かせを多くすることにより、友だちとの関わり方、やさしさ、かなしさ、美しさ……絵本からは実に多くのことを学び取ることができます。

2歳児～5歳児は繰り返しの読み聞かせにより、語彙力や読解力がつき、コミュニケーション能力を高めることにもつながります。

2. 具体的な実施内容及びその成果

(1) 園児を健やかに育てるための図書環境の実際

① 保育室内の環境整備について

保育室内は、園児にとっての活動場所で、そこには、絵本をはじめ活動グッズがあります。園児が手を伸ばし、絵本や遊び道具がすぐ手に取れる環境整備が求められます。特に絵本は、絵本の生命線である表紙が見えるように収納できると、園児の興味関心を喚起し、絵本を手にしやすくなります。今回、それを実現すべく、各保育室に絵本用の書架を設置することができました。この書架は、園児の身長を考慮したものとなっており、とても使いやすく、保育室内の雰囲気も良くなりました。絵本の読み聞かせは勿論のこと、気軽に絵本を手にとることができる環境整備を行うことができました。

保育室内の絵本の整備



② 円形図書の絵本コーナーの整備について

園舎内には園児の隠れ家的な絵本スペースがあります。それは螺旋階段下に高さが50cm程度の低めの円形本棚を設置しており、その空間で絵本が読めるようになっています。

園の関係者からの寄贈図書を中心に、園児が手に取ることのできる絵本や図鑑は当初150冊程度。今後、計画的に冊数を増やしていく計画でしたが、絵本に取り囲まれる状況になるまでは、かなりの年数がかかる見通しでした。

そんな中、貴社の事業により多くの絵本を購入することができ、蔵書数が格段に多くなり、円形図書スペースとして機能が高まりました。園児や保護者が気軽に絵本を手に取り、絵本に接する機会が多くなったことにより、当園が目指した円形図書スペースの充実を図ることができました。

円形図書スペースの整備



円形本棚の図書収納スペースは、写真のように上部は本を横に並べることができる閲覧スペースとなっています。絵本に囲まれる落ち着いた空間は、コロナの影響で情緒が不安定になっている園児が、この空間でワンクッション過ごすことにより、落ち着きを取り戻し所属のクラスに戻ることができるなどの教育効果も生んでいます。また、保護者が絵本を手にする姿も見られ、スマホ世代の親が直接絵本を手にとることができる貴重な場ともなっています。

(2) 園児及び保護者の実態を踏まえた『絵本の読み聞かせ』の実際

① 幸福感と喜びの共有を与える『絵本の読み聞かせ』



② 子どもの精神状態を落ち着かせる『絵本の読み聞かせ』



③ 感情を豊かにする・創造力を育てる『絵本の読み聞かせ』



④ コミュニケーション能力を高める『絵本の読み聞かせ』



3. 今後の課題と展望

保育計画策定の目的を

(1)園児を健やかに育てるための図書環境の充実

(2)園児及び保護者の実態を踏まえた絵本の読み聞かせ活動の実践

とし、活動に取り組みました。

絵本の読み聞かせは、上記のように日々の保育に位置づけ、心を育てる有効な活動として重要視しています。そんな活動の中、円形図書コーナーで保護者や園児が絵本を手を取ったり絵本を眺めたり、また、お母さんの膝の上で読み聞かせにじっと耳を傾けていたりする園児の光景を見ることが多くなりました。その姿はとても微笑ましく、後光が差すような母子像のように映り、心がポッと温かくなります。このような光景が日常的に広がることを願いたいと思います。

以上、このように絵本の読書環境を整備することができたのは、貴社の社会貢献事業のおかげです。改めて感謝いたします。

以上